

会 議 録

会 議 名		第 75 回 八王子市ごみゼロ社会推進協議会				
日 時		令和7年(2025 年) 10 月 23 日(木)	開始	午後 2 時 00 分	終了	午後 3 時 00 分
場 所		館清掃事業所 大会議室				
出席者	委 員	石井委員、守屋委員、田代委員、田頭委員、平澤委員、 矢島委員、佐怒賀委員、嶋田委員、伊藤奈美江委員、 伊藤洋史委員、増渕委員、黒木委員 以上 12 名				
	事務局等	岡田資源循環担当部長、森田資源循環課長、橋本施設計画担当課長、河内廃棄物対策課長、青木ごみ総合相談センター所長、林戸吹清掃事業所長、枝根館清掃事業所長、熊澤資源循環施設管理課長 【資源循環課】黒田課長補佐、白鳥主査、岩崎主査、小岩井主査、村田主任、日野主任、櫛島主任、大神田主事、森田専門員、木下アドバイザー				
欠 席 者		住村委員、田野倉委員 以上2名				
議 題 等		1.議題 (1) 令和 6 年度（2024年度）ごみ処理基本計画進捗状況について 2.その他				
公開・非公開の別		公開				
傍 聴 人		なし				
配 布 資 料		会議次第 第 75 回ごみゼロ社会推進協議会 席次表 八王子市ごみゼロ社会推進協議会 委員名簿 組織改正について(令和7年(2025 年)8月 12 日実施) 資料 1-1 令和6年度(2024 年度)ごみ処理基本計画進捗状況について 資料 1-2 令和6年度(2024 年度)ごみ処理基本計画(令和6～15 年度(2024～2033 年度))進捗状況				

1 議題

(1)令和6年度(2024 年度)ごみ処理基本計画進捗状況について

【意見、質疑応答等】

委員：(基本施策 1-1 地域での共創による取組)資料 1-2 の「主な取組実績(令和6年度(2024 年度))」の中で「LINE を利用した不法投棄通報システムが運用開始され、162 件の通報、1,530 kgを回収した」とあるが、例年に比べて減っているか。

市：不法投棄の量としては、横ばいの状況。LINE による通報は月に約 30 件くらい。当初の目的としては、産業廃棄物のようなものが大量に投棄されるような場合に、早めに通報してもらおうといったことを考えていたが、散歩中の市民が気軽に通報できることもあってか、コンビニ袋に入った物のような、ポイ捨てのごみの通報が多い。令和6年(2024 年)からの取組なので、今後、数字のデータを蓄積して分析していきたい。

委員：タイヤやバッテリーのような、通常市で処分出来ないような物が通報されるようなこともあるか。

市：通報があったことも過去にはある。大きい物では自転車など。ごみの中に記名されている物が確認できた場合は、警察に通報するなど連携した対応をしている。

委員：LINE は広報で周知したのか。

市：広報で周知した。それ以外には市のホームページで周知している。

委員：広報で周知するのが分かりやすいと思うので、定期的に周知してほしい。

委員：(基本施策 2-1 食品ロスの削減)資料 1-1 に食品ロス焼却量の推移のグラフがあるが、令和 10 年度(2028 年度)の中間目標値 11,000 トン/年に対し、令和6年度(2024 年度)実績が 13,800 トン/年と、他の項目の中間目標値と比較しても、一番達成が危ぶまれるように思える。一方で、資料 1-2 では、食品ロスの削減の取組の評価は A となっている。この評価について伺いたい。

市：令和 4 年度(2022 年度)から令和5年度(2023 年度)にかけて食品ロス焼却量が増加してしまっただが、令和6年度(2024 年度)は減少している。また、「タベスケHachioji」(食品ロス削減を目的としたマッチングサービス)という取組を積極的に周知した成果として、全国でこのシステムを利用している自治体の中でも登録店舗数が一番多い。現在では、取引件数も非常に活発になってきており、この取組は、食品ロスに対する市民の意識向上にも大きく貢献していると考えられる。これら一連の流れを踏まえての評価とした。

委員：(基本施策 3-5 災害時のごみ処理体制の確立)大規模な災害が発生した時の、災害廃棄物の仮置き場はまだ市民には周知されていないと思うが、ある程度決まっているのか。

市：市有地の中で、清掃工場の敷地内も含め、概ね 2,000 m²以上の敷地をリストアップしている。災害の規模や、特に被害の大きい地域など、災害の状況による所が大きいので、実際の災害時に地元町会と調整しながら決めていくことになると思う。令和元年台風 19 号の際にも土砂が多く出た地域で町会と調整した。

委員：(基本施策 3-1)ゼロカーボンシティに向けた取組)令和5年度(2023 年度)に引き続き、ごみ収集車に収集支援システムを導入し、コンサルティング分析や、最適な収集ルートの検証を行ったとあるが、具体的な効果はあったのか。

市：GPS 機能を用いて、現在どの地域を収集しているか把握できるなどのメリットもあったが、最適なルートを検証の部分では、長年収集してきた現場の経験値と、若干齟齬があるというのが実感したところ。ただ、これを機会と捉え、ルートの見直しの検証を続け、今後の収集車両の削減につなげていけたら、と思っている。

委員：(基本施策 3-1(2)脱炭素技術の調査・研究)館クリーンセンター運営事業者との CCU 技術勉強会を開催したとあるが、具体的に最新技術を使った実証実験のようなことは実施しているか。

市：可燃ごみを工場で焼却することで発生する二酸化炭素を、何か活用する方法を確立して貢献することができないかと事業者とも検討している。二酸化炭素の活用には色々な手法があると思うが、実際にはまだその手法が確立できていない。

委員：テレビからの情報になるが、生ごみを燃やさずに固形燃料を作っていたり、廃棄食材から紙を作るような実験を行っている自治体もあると聞く。八王子市でも何かできないか。

市：国や関係者も注目して視察に行っているというような話は聞いてはいるが、八王子市の人口規模で本格的な実用ができる段階にはまだ達していない、まだ時間はかかるのではと思っている。しかし、メーカーの技術力も高いので、今後研究が進み、改良されていった時に将来的な可能性は考えられる。現在の清掃施設では、これまで通り焼却しながら発電をしつつ、技術の調査・研究は継続していきたい。

委員：先日、市外に住む友人がテレビで八王子市の取組を見て、感動したと言っていた。ごみ処理基本計画の取組の詳細までは分かっていないが、この協議会に委員参加している身として嬉しくなった。

市：直近だと、市内でダンボールコンポストに取り組んでいるご家庭が紹介されていた。

委員：全国放送はやはり影響力がある。市からも積極的にメディアに取り上げてもらうよう働きかけてもらえれば、市民としてはますます頑張ろうという思いになるので、今後もお願いしたい。

委員：(基本施策 3-3(1)製品プラスチックの資源化に向けた施設整備)今スーパーに行くと、食品はほとんどプラスチックで包装されている。この現状を見るとプラスチックは今後も絶対減らないと思う。「プラスチックリサイクル事業者との意見交換による効率的な資源化体制の検討を行った」と資料にあるが、こうしたプラスチックの処理についても取組に力を入れてほしい。

市：現在八王子市では容器包装プラスチックだけを収集したのち資源化しており、その他の製品プラスチックなどは可燃ごみとして焼却している。ある意味では発電してサーマルリサイクルという形になってはいるが、プラスチックとして循環していないのが現状。「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が令和4年(2022 年)に施行され、製品プラスチック等も含め、プラスチックを再生、循環していくことが求められているため、八王子市としても新しい施設を建設する際には、そういったところにも対応した施設整備をしていかなければならない。容器包装プラスチックと製品プラスチックを一括して回収するのか、別々に回収するのかについても、今後の検討課題と認識している。

委員：収集して処理する市の側からすると、別々に回収して、ある程度同じ素材のものが集まっているほうが都合が良いのか。

市：現状では収集後に手で選別して、容器包装プラスチックであっても、あまりにも汚れがひどいものは取り除いて可燃ごみに回していたりする。自治体ごとに容器包装プラスチックを

圧縮梱包してリサイクル業者に持って行っているが、こういった選別や、市民の意識の高さも相まって、八王子市の圧縮梱包したものの品質評価は常に高い評価を得ており、非常に良い品質のプラスチックになっているそうである。

委員：スーパーで回収しているようなプラスチックもあると思うが、なるべくスーパーに持っていったらうほうが回収の効率が良いということなら、そういったことを推し進める方針というのも選択肢としてはあるのでは。市の回収と、民間企業での回収ではどちらが良いのか。

市：民間で回収されたものは 市のごみ量にカウントされていない。どちらが良いとは市で言えないが、いずれにせよ、資源化率の向上も我々が目指しているところなので、今後も汚れているプラスチック等は洗ってプラスチックとして出していただけるとありがたい。

委員：私は 25 年間ごみ拾いをやっているが、ペットボトルも缶も拾ったものを一度持ち帰って洗って分別している。少しでも協力できたらと思っている。

委員：そういう市民の方が多くなれば一番理想である。

2 その他

委員：今年の夏はとても暑かった。40 度を超える気温の中、ごみの収集をしている職員は気の毒すぎる。もっと朝早くに始めるとか、夜に収集に回るとか、何か対策を考えないと、市の職員や民間の収集事業者もそうだが、携わってくれる人がいなくなってしまうのではないかと。熱中症対策をこれからもっと考えていかないといけない。

市：今年から市の職員はポロシャツで収集に回れるようにした。それだけでは足りないと認識しているので、今後も対策を検討していきたい。

委員：「みんなの川と町の清掃デー」も朝8時ごろ、暑くなり始めてから開始するから大変だった。参加者も段々と高齢化が進み、小中学校に参加者を募る周知をはかったが、中々参加者は少なかったようだ。これからも熱中症対策や若い人の参加を促していかないと、どんどん参加者が減っていつてしまうことが心配。是非これも対策をお願いしたい。

【市からお知らせ】

市：次回のごみゼロ社会推進協議会は、2月9日(月)14時から市役所本庁舎で開催する。